

## 募集要項

### 第3回 プロジェクトリーダー育成講座

期 日：2011年11月15日(火)～17日(木)、12月5日(月)～12月6日(火)

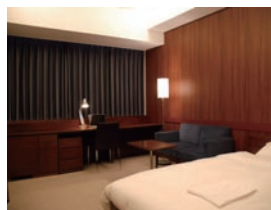
会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス協生館

募集定員：25名

対 象：グローバルプロジェクトのリーダーを目指す中堅社員

受講料：250,000円(税別)  
※宿泊費は別途お納めいただきます

申込方法：WEBサイトよりお申込ください。



#### 協生館宿泊施設

合宿形式セミナーのため、11月15日(火)、16日(水)および12月5日(月)は、原則として協生館内の研修宿泊施設へ宿泊していただきます。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/>

## 大学院入学案内

### 大学院システムデザイン・マネジメント研究科

募集定員：修士課程 / 77名 後期博士課程 / 11名  
入試内容：書類選考(1次)、口頭試問等(2次)

2011年度Ⅱ期入学試験(2012年4月・9月入学者対象)  
出願期間：2011年9月7日(水)～9月12日(月)  
口頭試問等：2011年10月8日(土)・10月9日(日)

2011年度Ⅲ期入学試験(2012年4月・9月入学者対象)  
出願期間：2012年1月11日(水)～1月16日(月)  
口頭試問等：2012年2月4日(土)・2月5日(日)

大学院説明会(於：日吉キャンパス協生館)  
2011年8月6日(土)13:00～  
2011年12月3日(土)13:00～



慶應義塾大学 日吉学生部 SDM担当

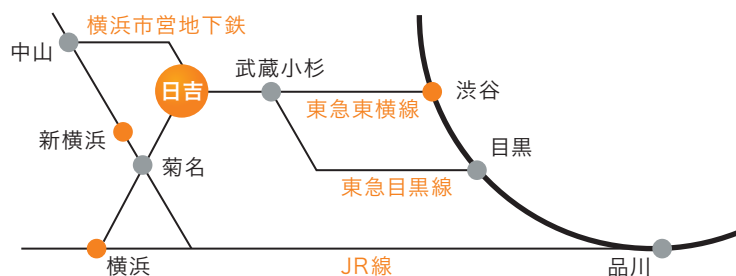
〒223-8526 横浜市港北区日吉4-1-1 協生館2階  
Tel: 045-564-2518 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

東急東横線、東急目黒線 ※東急東横線の特急は日吉駅に停まりません。

横浜市営地下鉄グリーンライン

渋谷～日吉：25分(急行約20分)  
横浜～日吉：20分(急行約15分)  
新横浜～菊名～日吉：20分

日吉駅、徒歩1分



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 システムデザイン・マネジメント研究所主催  
後援：一般社団法人 PMI日本支部(カテゴリー A、最大36PDU 受講証明書取得可能)

## 第3回 プロジェクトリーダー育成講座

### グローバルビジネスのリーダーシップを強化する

- 主な対象者
- ・インフラ、エネルギー、都市開発をグローバルに展開したい
  - ・大型施設の建設や、新工場立ち上げのプロジェクトを成功させたい
  - ・複雑なシステムビジネスのニーズに対応できるリーダーになりたい



#### 大型プロジェクトの基盤構築とシステム化

高橋 良之 チーフ・トレーナー

日揮プラントソリューション(株)顧問  
慶應義塾大学非常勤講師



#### 契約上のリスクと法的要請への対応

古屋 邦彦

九州国際大学大学院法学研究科教授



#### 説得と調整のリーダーシップ力を開発・強化

岩下 貢

(株)日米コミュニケーションセンター所長

2011年

11/15[火]-17[木]、12/5[月]-6[火]

3日・2日間合宿制の集中講義×2回(計5日間コース)

グループワークによるワークショップ、個人ごとの宿題とプレゼンテーションあり

**SDMI**  
System Design and Management

**PMI** Japan

**慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科とは？**

慶應義塾創立150年の2008年に開設された、国際的にも例を見ない学問分野横断型大学院です。文系・理系や、新卒・社会人、分野の枠を超えた集団でメルティングポットを構成し、世界をリードする人材を育成します。

**前野 隆司** Takashi Maeno  
SDM 研究所長兼 SDM 研究科委員長



**第3回プロジェクトリーダー育成講座 開講にあたって**

新興国における生活・文化の向上、人口の増加に伴い、エネルギー、インフラストラクチャー、公害環境、生活産業、災害対策、情報システム整備等の分野は、グローバルビジネスプロジェクトとして大いに期待されています。しかし、現在の日本のビジネスは国際競争力を失いつつあり、将来の日本経済を活性化していくうえで、これら海外のビジネスプロジェクトに参加・挑戦していくリーダーシップを強化することが必要です。これらのプロジェクトを効果的に遂行させるためには「システムデザインマネジメント (SDM)」や「プロジェクトマネジメント (PMT)」技術を駆使できるプロジェクトリーダー (プロジェクトマネジャー、技術リーダー) の投入・育成が必須条件といえます。本講座は経験豊富な講師陣により、これらのビジネスニーズに対応できるプロジェクトリーダーを育成します。

**当麻 哲哉** Tetsuya Toma セミナーコーディネーター

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授  
Project Management Professional (PMP)、PMI 日本支部理事 (教育担当)  
米国3M社で製品開発スペシャリストとして、グローバル市場での数々のプロジェクトを経験。豊富な新製品導入実績により多数の社内報奨を受賞した。2008年4月より現職。システムデザイン・マネジメント研究科のコア科目「プロジェクトマネジメント」を担当。

**カリキュラム**

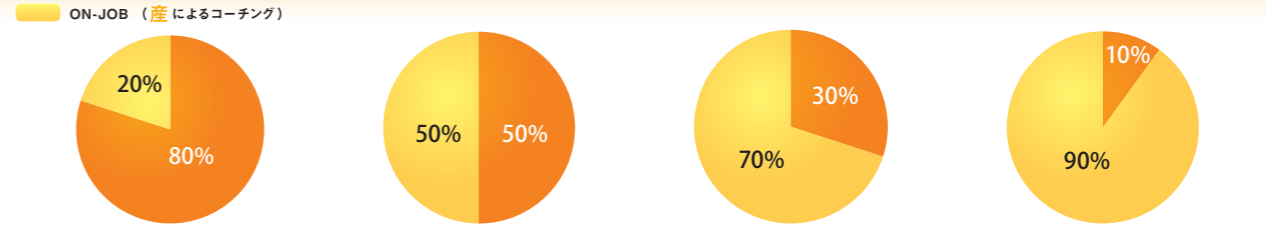
前半			後半	
11/15 [火]	11/16 [水]	11/17 [木]	12/5 [月]	12/6 [火]
システムデザイン・マネジメント (SDM)				
プロジェクトマネジメント (PMT)				
	契約リスクのマネジメント			
	人材のリーダーシップ強化			
			プロジェクトマネジメント基盤整備	

全てのカリキュラムを修了された方には、最終日に「修了証書」をお渡しします。



**産学協同での育成セミナーの実現**

**プロジェクトリーダーの育成スケジュール**



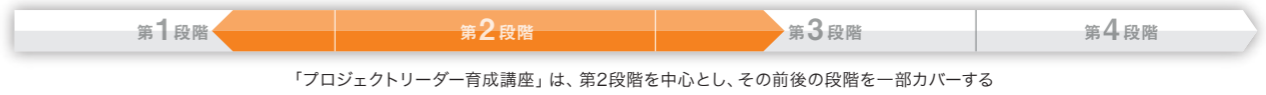
**ON-JOB (産によるコーチング)**  
**OFF-JOB (学によるティーチング)**

プロジェクトを成功裡に導くための「プロジェクトマネジメント」(PMT)技術の定義と機能から理解・習得する期間。ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約20:80。  
★ PMT: プロジェクトマネジメント

プロジェクトリーダーが具備すべき技術を理解し、問題の可視化、多視点に立った判断力を養い、実JOBに適応させながら習得する期間。ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約50:50。

各々の実プロジェクトで発生するトラブルなどを、事例研究を通じて理解を深め、プロジェクトリーダーの能力向上を行う重要な期間。ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約70:30。

ワークショップを通して、事例の中からプロジェクトを成功裡に導くための改革・改善をピックアップし、プロジェクトリーダーの更なる能力向上を行う重要な期間。ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約90:10。



**■ 昨年度参加者からの声**

産学協同の講義の中で、PLを机上で勉強することはとても興味深かったです。異業種でもPLになるためのスキルやPLになった時の課題、悩みが近いと感じることができたことは、自分の課題認識に間違いがないと再認識が持てる点でとても良かったです。また講義は、その課題解決の方向性を示してくれていたと思います。

私自身、国際プロジェクト契約の知識が全くなく、今回の講義にて、日本では当たり前と思っていた事でも、海外では留意しなければならぬことが理解する事ができ、契約書の重要性が非常に勉強になりました。なお、日本での契約も徐々に海外と同様になりつつあるので、今回の講義内容を活かしていきたいと思っています。

海外ビジネスコミュニケーションについて、留意点、重要なポイント等を分かり易く講義頂き大変参考になりました。特に日本のPM、海外のPMの違いについて非常に興味深く受講させて頂きました。

実例を用いた講義をして頂き、大変分かり易い内容でした。特にPM、PMOの任務として、「実務担当者の能力を引き出す、気持ち良く働く環境の提供」というKeywordは非常に共感できました。



本講座では、プロジェクトマネジャー (PM) や技術リーダーのような、プロジェクトリーダーに必要とされる次の5つの柱を、ワークショップを活用しながら習得していきます。

## A システムデザイン・マネジメント (SDM)

多数のステークホルダーが存在するプロジェクトにおいて、「木を見て森も見る」多視点での捉え方が重要です。要求分析からシステムデザイン、分解、構築、統合、運用と流れる SDM 手法を理解・習得していきます。

## B プロジェクトマネジメント (PMT)

プロジェクトを取り巻くビジネス環境は、ますます複雑で厳しい状況になっています。より効果的なプロジェクト遂行のために、PMT を理解し駆使する技術の育成が求められます。成功へのシナリオ、リーダーが具備・強化すべき技術、プロジェクト遂行企業基盤とプロジェクトリーダー育成ガイドラインを中心に、経験談を交えて解説します。

## C 契約リスクのマネジメント

日本人は欧米人に比べるとリーガルマインドに欠けています。世界レベルの技術が契約リスクの処理を誤って挫折することもしばしば起こっています。ここでは、リーダーが最低限必要なリーガルマインド (契約センス) を習得していきます。

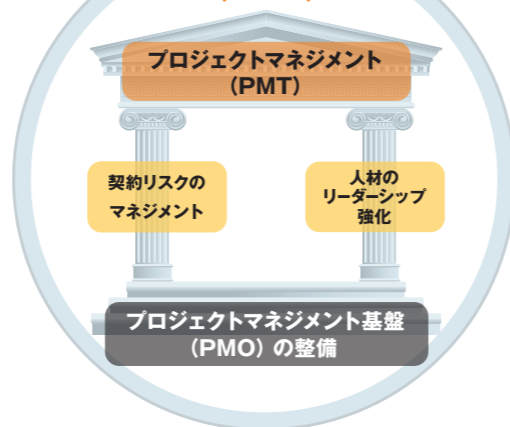
## D 人材のリーダーシップ強化

プロジェクトにおいて、チームワーク能力を発揮することは、日本企業の武器となり、グローバルな差別化戦略となります。ここでは、チームづくりのためのリーダーシップの在り方、進捗状況に合わせた折衝・調整・コンフリクトマネジメント、および論理的コミュニケーションについて習得します。

## E プロジェクトマネジメント基盤 (PMO) の整備

プロジェクトマネジメント・オフィス (PMO) は、新技術や商品の開発、新市場の開拓、システムビジネスの立ち上げ等、プロジェクトの効果的な遂行のために、企業が持つべき機能です。プロジェクトを支える遂行技術基盤を構築し、自社が最も必要とし得意とする要件の洗い出しと体系化のマネジメントシステムについて、事例を含めて紹介し理解を深めていきます。

## システムデザイン・マネジメント (SDM)



プロジェクトリーダーに必要とされる5つの柱



協生館3階 CDF (Concurrent Design Facility) ルーム



## 「木を見て森も見る」全体のバランスを捉える力を強化

白坂 成功 Seiko Shirasaka

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 / Project Management Professional (PMP)

三菱電機株式会社では「こうとり」(HTV: H-II Transfer Vehicle)の開発でアビオニクスアーキテクチャ設計、システム安全設計をはじめ、全体インテグレーションを行う。フライトコントローラとして運用終了まで実施。「こうとり」開発では多くの賞を受賞。2011 年度より現職。専門分野は、システムズエンジニアリング、宇宙システム工学、システム安全/機能安全。

「木を見て森も見る」。プロジェクトリーダーに必要なのは、1本ずつの木を見極めながら、森全体のバランスをうまく捉える力です。高度成長期の苦境を数多く乗り越えてきた経験豊富な世代が次々に引退するなか、従来の OJT 中心の方法では、リーダーの育成が間に合わなくなっています。また多くのプロジェクトが、複数の企業が複雑に絡み合う大規模なものとなってきています。高度で複雑な問題を可視化し、多視点で捉えて解決していく「システムデザイン・マネジメント」の考え方を積極的に取り入れた、新しいプロジェクトマネジメント手法により、グローバル社会で勝ち抜いていく次世代のリーダー育成に挑戦します。

## 大型プロジェクトの基盤構築とシステム化

高橋 良之 Yoshiyuki Takahashi チーフ・トレーナー

日揮プラントソリューション(株)顧問 / 慶應義塾大学非常勤講師

1964 年 日揮株式会社入社、国内・海外の石油精製、化学、食品加工、家電、自動車関連プラントのプロジェクトをプロジェクトマネジャーとして担当。エンジニアリング振興協会では、80 年代にプロジェクトマネジメント部会委員を務める。現在は大学を含めたプロジェクトマネジメントの講座、講習会の講師、コンサルタントなどを行っている。

喜ばせれば人は力を出すのです。プロジェクトリーダーに必要なことは、いかに気持ちよく仕事のできる環境を作ってやるかということ。「失敗してもオレが責任を持つ」と権限を委譲 (Delegate) し、失敗を責めずに解決策と一緒に考えてやることです。近年、水ビジネスや高速鉄道、原子力発電、都市開発など、多数の組織や企業が絡む大規模なシステムビジネスのニーズが急増しています。細かく管理するマネジメントや、専門技術のスペシャリストだけでは、こうした大きなプロジェクトを引っ張れません。システムエンジニアリングによる全体を見る力、効果的ビジネス展開ができるプロジェクトリーダー育成が急務となっています。

## 契約上のリスクと法的要請への対応

古屋 邦彦 Kunihiko Furuya

九州国際大学大学院法学研究科教授

1966 年 慶應義塾大学法学部政治学科卒業。同年、総合エンジニアリング会社日揮株式会社に入社。一貫して法務部門に在籍し、国際契約 (プロジェクト、知的財産ライセンス、M&A など) を担当する。2000 年より現職。国際取引法を担当している。

リーガルマインドに欠けていると言われる日本人。このため、技術的には世界最高レベルのプロジェクトリーダーが、契約リスクの処理を誤って挫折することがしばしば起きています。例えば、プロジェクトそのものは納期どおり、予算内で、仕様書どおり立派に完成したのに、契約で税金の負担について明確にしておかなかったため、最後に現地国の税金を多額に賦課され、一転して大赤字のプロジェクトになってしまった、などが典型的な事例でしょう。「手術は成功した。しかし、患者は死んだ!」の現象が日常茶飯事に生じているのです。このような悲劇はプロジェクトリーダーがわずかに握りの契約知識を持っていれば未然に防げます。本講座で契約リスクの適切な処理方法について習得してください。

## 説得と調整のリーダーシップ力を開発・強化

岩下 貢 Mitsugu Iwashita

㈱日米コミュニケーションセンター所長

南カリフォルニア大学大学院博士課程に2年間に在学し、「Debate and Argumentation」のコーチを務める。その後、山武、マツダ自動車、テンソー、NEC、IBM 各社の海外進出にあたってのマネジメント作成、市場戦略作成、社内外の効果的折衝方法などのセミナーへ参加、助言を行っている。

チームマネジメントにおけるリーダーシップに必要なのは、論理的な説得力をもって、人間関係を高めていくコミュニケーションです。ネゴシエーション、プレゼンテーション、アーギュメンテーション、コンフリクトマネジメント、グループインタラクションなどを通して、組織メンバーの意思決定プロセスへの参加を促すマネジメント (Participative Management) が重要なことです。こうした組織全体を見てコンセンサスを作っていくマネジメントは、いわば日本の良い文化とも言えるでしょう。私たちに不足しているイノベーションや戦略性を加えることで、効果的なプロジェクトマネジメントを構築し、海外ビジネスでの日本の競争力を強化し、戦略的リーダーシップをとれる人材を育成します。